

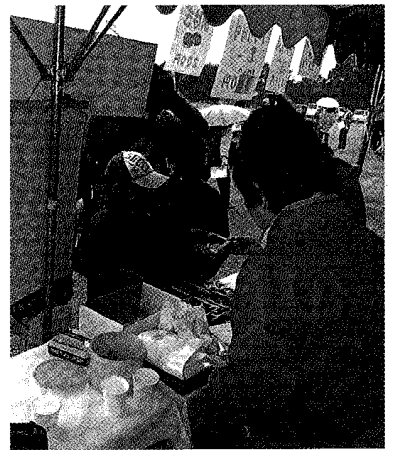
事、中谷愛氏である。

ESD は、価値観の教育であり、具体的実践は各校の教育課程に位置付いたものとなる。それには管理職のリーダーシップと、学校での実践を支える行政、地域の企業、団体等の支援が欠かせない。加盟が目的でなく、教育の成果として評価できるものにしていきたいと考えている。

館林ユネスコ協会

当協会では、館林市の国際交流協会や生涯学習課が主催するイベントに参加することや、子供たちを対象としたサマースクールを主に実施しています。

イベントの参加につきましては、募金の協力をお願いやユネスコの啓蒙普及活動を実施しているとともに、会員が赤飯やおはぎを自宅で作り持ち込み、厚焼き玉子は実演店頭販売をしています。最初の頃は売れるかと少々不安でしたが、本物の材料を使用し、誠心誠意作っている



せいか売れ行き良好でいつも売り切れてしまう状況で、収益金や募金はすべて活動資金や特別積立金に充てています。

サマースクールにおいては三年続けて下仁田のジオパークの研修を実施していましたがマンネリを避けることと会員の高齢化が進み、子供たちと同じ行動をすることがやや困難になったので、今年は筑波学園都市の「測量と地図の科学館」と「筑波宇宙センター」の二箇所を研修先としました。この施設は、ひとつは地球を、もうひとつは宇宙に関するものを展示しています。私たちが生活するうえでとても密接な関係があり、とても大事な地球であり空間であります。でも子供たちには、無理ありませんが圧倒的に宇宙の方に興味がそられたようです。サマースクールの際、子供たちとの接点の少ない者に気になったことが幾つかあります。欠席者を親が主催者の了解を得ずに勝手に他者へ変更すること、降車する際の片付けの徹底をしたのに出来ないグループがいること、参加者の人数の確認が必要なので整列の号令をかけても

できないこと、車酔いして気持ちの悪いことを誰にも告げられず吐いてしまい周りに迷惑をかける子供。子供同士のコミュニケーション、集団行動での約束事、家庭での躾等、如何なっているのかと？

二〇一四年度県ユネ 世界遺産委員会報告

委員長 北川紘一郎

本委員会は、ユネスコとして世界遺産を抱える県にふさわしい県民性の陶冶、高揚を図る。という当時の矢島会長の強い思いから発足致しました。

委員会の名称は正式には「富岡製糸場世界遺産登録推進委員会」として二〇〇六年度よりスタートし、旧官営富岡製糸場という対象となる物件の世界遺産登録の推進運動であることをはっきりと明示した委員会組織の編成がいいだろうということ、長い名称となった経緯があります。つまり、運動主体とその方針をはっきりと唱い目的に沿った活動を推進するために編成された組織であります。

そして当初から関連する県内各地域を巡回するスタディツアーを開催しながら民間としての登録推進活動が続けてきました。

また、「世界遺産年報」のまるごと勉強会を通じて日ユ協から講師を招いて世界遺産について学んできました。

委員会 二十二名十八回 (二五〇)、ス

タディツアー六回 (二〇〇)、学習会等七回 (二五〇)、関プロ研その他準備会等。延べ人員は八〇〇名を超える委員会活動を続けて来ました。

K 基金からの予算や中村前橋元会長のバス提供、献身的小林事務局と参加する皆様に支えられて「富岡製糸場と絹産業遺産群」の登録支援を続けることが出来ました。心より感謝申し上げます。

そして二〇一四年六月に「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産登録を受け本委員会は、その目的である登録推進活動を完了することになりました。

八月の理事会において、その役割を終えたことを報告し、今後の委員会運営について論議の結果、委員会は新たに登録後の運動を行ってゆくという基本方針が決められ、次年度以降の運動方針等は暫時計画を立案してゆくことが審議されました。

なお、本委員会の二〇一四年度の活動は、二〇一四年の県ユネ連の活動が関プロ研究会にむけてオール群馬で行うこととなったために、本委員会も関プロの分科会での発表とコーディネータの役割実践に専念することとなり、十月二十五日の関プロ分科会とその後の報告書の作成で二〇一四年を終了いたしました。八年間に渡る長い間の御協力を感謝申し上げます。

本委員会は目的や人事を含め、次年度より新たにスタートすることになりますので、各位には引き続きよろしくご協力のもと、お願い申し上げます。